

ななかま

「一言・・・」

教員になりたての頃、教科についてのアンケートを子どもたちから取ろうと思いました。その際、「あなたは社会科が好きですか?」という問いに、先輩の先生からダメ出しをもらいました。先輩教員は、そのまま背中を向けて去ってしまいましたが、よく目にする質問ですので、何がよくないのか? 考えているうちに、確かに何か物足りない気になってきます。しばらく悩んで、次のような質問に替えました。「もう一時間社会科の授業が増えたら、あなたはどう思いますか?」大した違いはないかもしれませんが、これが正解かどうかはわかりませんが、未だにこちらの方が私にはピタリと来る質問だと思っています。◆「もう一回やってもいいな」それまで、「なんでこんなことやらなくちゃいけないの」等といった子どもたちが、学習発表会を終えてこんなことを言ったそうです。問われることなく、自然に出てきた言葉だそうですが、会場・音響の係でご尽力をいただいた皆さん、大道具小道具づくり等にご協力いただいた保護者の皆さん、そして手前味噌で申し訳ありませんが、発表づくりに苦勞をした教員たち、すべての人の支援が報われた一言に思えます。参観された保護者の皆さんのご協力で混乱もなく、学芸・学習発表会が無事に終了しましたことに感謝いたします。◆本日をもって、2016年の授業は終了しますが、学芸・学習発表会はもちろんのこと、様々な場面で頑張ってきた子どもたちの努力が報いられる一言を、お子さんにも伝えてあげてください。1月8日には、気持ちも新たに意欲に満ちた子どもたちと会えることを楽しみにしています。皆様、どうぞ良い年をお迎えください。

プリンス日本語学校

28年度 No.31

平成28年12月18日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org

書初めのお知らせ

日付	学年	生徒数	クラス人数	時限	
2017/1/8	P小高1(芝崎級)	12	27	1	
	P小高2(スチュワード級)	15			
	302教室のみ	P小低1(比嘉級)	8	18	2
		P小低2(中島級)	10		
		J1	16		
J3	8				
J4	9	24	4		
J5	7				
2017/1/15	小6	19	19	1	
	210教室	小4	19	19	2
		高1	6	19	3+4
		高2	9		
P中高(鷲尾級)		4			
2017/1/15	小5	17	17	1	
	302教室	小3	20	20	2
		中1	14	23	3
		中2	3		
		中3	6		
P小1(西村級)	13	13	4		

※ご協力いただける、クラス委員はじめ保護者の皆さん、ありがとうございます。

※習字用具に限りがありますので、ご家庭でお持ちの方はご持参ください。



表現学習発表会優秀者発表原稿①

※紙面の構成で、2ページにまたがった掲載となります。

-最優秀賞/生徒が選んだ優秀賞-

「視点」 高等部 岩崎 彩子

これは私の最後の表現学習発表会です。そこでスピーチを書くときに、ここで学んだなにかを話したいと思い、その時一番に思い浮かんだのは「視点」です。私はみなさんと同じく、普段は現地校に通い、週一で日本語学校に通っています。これを私は15年間も続けてきました。そんな日々のなかでみなさんもこんな経験があるのではないのでしょうか。現地校で学んだことと日本語学校で学んだことが矛盾している、または同級生の考え方が違う、など。私も小学生の時にこんな経験が何度かありました。

お知らせ

- ◆平日オフィス閉所：12月27日～1月3日
- ◆本日、冷泉彰彦氏著書販売会 2Fロビーにて
- ◆入学・入園説明会のお知らせ(メール配信)

今後の予定

- 本日 冬休み前最終授業日
- 1月8日 書初め①
- 1月15日 書初め②
Pコース、高等部入学説明会
- 冷泉彰彦氏講演会14:45～(301)
(※1月8日の予定から変更になりました。)
- 1月22日 書初め展示/幼稚部書初め
ADULT 春コース開始



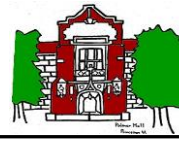
なかま

プリンストン日本語学校

第28年度 No.31

平成28年12月18日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org



最も記憶に残っているのは第二次世界大戦について勉強した時の教育の違いです。日本語学校では、今でも覚えている、印象深い多くの被害者の話を読みました。このようなかわいそうな人々の話をきき、アメリカ軍はなんてひどいんだ、という気持ちになりました。しかし、アメリカの学校では、真珠湾の話が多く、日本が悪者のように思われました。原爆は戦争を終わらせるために必要な手段でしようがないことであった、と言われたこともありました。

当時の私は何を信じればいいのかわかりませんでした。しかしあとになって気付いたことは、どちらも完全に信じる必要はないのです。私なりの理解のしかたをすればいい。そう思ってから第二次世界大戦はアメリカ国土を攻撃し、完全に負けているのに日本国民を騙し続けて戦い、「捕まるよりも自殺」のメンタリティーを兵士に押し付けて世界を恐怖に落とし入れた日本軍、それに日本政府ではなく国民を攻撃し、原爆を科学実験半分で落とし、アメリカに住んでいるジャパニーズアメリカンを強制収容所に入れたアメリカ軍、両方が悪い。そう思うようになりました。原爆を落とすのは間違いだったと思いますが、なぜやってしまったのかは理解できます。このような結論にたどり着くには、「視点」を考えることが大切でした。日本語学校と現地校に通うことによって見ることで2つの視点、日本とアメリカの視点です。もう少し小さなスケールの問題について考えてみましょう。以前、アメリカのニュースで日本の電車マナーの動画が話題になりました。女の人は電車のなかで化粧をするべきではない、というものでした。フェミニズムが進んでいるアメリカでは考えられないことです。

このニュース番組ではこれは「女性への弾圧だ」と騒いでいました。私も最初はそうだと思ったのですが、考えてみれば女の人が化粧する通勤時間の電車はほとんど体が動かせないほど混んでいる場合が多いので、化粧するのはマナー違反に当たるのではないかな、と思いました。これは日本の電車事情を知っているからこそわかることです。だがこのように視点を理解するのは日本とアメリカの間の問題だけではなく、いろんなシチュエーションで大切となります。もしかしたら自分の視点からは理解できないこともいつかあるかもしれません。でも大切なのは、人間関係はとても複雑であって、人それぞれの考え方があると理解することです。たとえ考え方がすれ違っても間違った考え方はない、とわたしは思います。そういう風に考え方を換えることによって、私はあらゆる問題に対して感情的にならずに考えることができるようになりました。ここにいるみんなは私のこの考え方を多分一番わかってくれる人たちだと思います。みなさんも常にほかの人の視点を考えながら、生きてみてください。

—優秀賞—

「終わらない戦争」中1 石川 悠生

ノーベル平和賞にはどのようなイメージがありますか。マザーテレサなど、有名人が数多く受賞しています。その平和賞を今年受賞したのは、コロンビアのサントス大統領です。コロンビアでは内戦が五十二年間続き、世界で最も長い内戦の一つとして知られています。この内戦を終結させようと、反政府武装組織と和平交渉を進めています。まだ解決には至りませんが、その成果が認められ今回ノーベル平和賞を受賞しました。

サントス大統領のように平和のために頑張っている人がいると同時に、戦争も絶え間なくあちらこちらで続きます。

「なんとか戦争を止められないかな。」

そう考えたとき、一つ目に浮かんだのは、思いやりが足りないからだということです。人と人、国と国で話し合えないと、戦争は止めれないと思います。兄弟がいると分かるとは思いますが、お互いの意見の言い合いから、喧嘩が始まってしまったことはありませんか。それと同じように、国と国がお互いの意見を言い合っていると、喧嘩、いわゆる戦争が始まってしまうかもしれないのです。それらのことから、僕は思いやりが大事だと思います。

二つ目は、各国々の今を知ることです。他の国の社会や政治状況、宗教を知ること、その国の問題やいいところがわかるとは思います。僕たちがいい例です。アメリカ、日本のそれぞれのいいところや悪いところを知り、その国にとらわれず他の考え方もあるということが、僕はアメリカに来てわかりました。

確かに一人が平和のことについて考えても何も変わらないかもしれませんが、でも、募金活動など、一人でもできることから始めてみませんか。あなたがドール募金すれば、助けられる命があるのです。アメリカ、日本、世界の人々が平和のことについて考えれば、みんなが幸せになると僕は信じています。

